

## 「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」 2021年4月29日開催決定！

会期：2021年4月29日(木祝)～5月9日(日)[11日間]

世界の環境都市をめざす北九州市で  
「SDGsをテーマにした芸術祭」が初開催



東アジア文化都市 2020 北九州実行委員会(会長 北橋健治 [北九州市長])は、2021年4月29日(木祝)から5月9日(日)までの11日間、北九州市東田地区(八幡東区)を舞台に「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」を開催いたします。

「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」とは、アートによって持続可能な未来社会への注目をいざない、またよりよい未来に向けての提案を行う「SDGs (Sustainable Development Goals)」をテーマとした芸術祭です。

北九州市は、歴史的・地理的にアジアの玄関口として発展し、国際的に文化が交流し、多くの文化人を輩出しました。現在では美術館や博物館など多くの文化施設が立ち並び、先進的な文化・芸術の発展を促すまちづくりを推進しています。また、公害克服の経験等を生かし、アジア諸都市と国際的な技術協力や都市間交流を積み重ね、行政はもとより市民レベルでの草の根交流を育んできました。

幕末・明治時代から日本の近代化に貢献した官営八幡製鐵所旧本事務所などの世界遺産を擁する開催地・東田地区。2022年にはスペースワールド跡地にエンターテインメント機能と商業が融合したショッピングモールや新科学館がオープンするなど、新たなまちづくりのスタートを迎えるにあたり、グローバルな課題である「SDGs」にも先進的に取り組もうとしています。

この芸術祭では、日本が培ってきた美的価値観を更新し続ける現代のアーティストの豊かな表現を通じて、来たるべき未来のビジョンを世界に発信していきます。世界の最も先進的な環境都市をめざすものづくりの集積地・北九州市はまさにそのような試みにふさわしい場所となるでしょう。また、新型コロナウイルス感染症の影響下で閉塞的になった社会に、イノベーションによって持続可能な発展と交流を生み出すことに積極的に取り組みます。ぜひご期待ください。

### 【持続可能な開発目標 SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは】

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界の構築を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

北九州市は、日本の近代化に貢献し、その中で起こった様々な困難を、多様な人々が力をあわせ、知恵と技術を使って克服してきました。そして、現在、2018年にOECD(経済協力開発機構)に「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として、アジア地域で初めて選定されるなど、「世界のSDGsのトップランナー」として新しい試みに挑戦し続けています。

# Information 開催概要

(2020年10月26日現在)

名称	北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs
キャッチコピー	真のゆたかさのために
会期	2021年4月29日(木祝)～5月9日(日) [11日間] * 一部会場は会期延長 北九州市立いのちのたび博物館：2021年4月29日(木祝)～5月30日(日) 北九州市立美術館：2021年4月29日(木祝)～7月11日(日) * 内覧会・プレスプレビュー 2021年4月28日(水) (予定・招待制)
会場	東田大通り公園、北九州市立いのちのたび博物館、東田第一高炉跡、北九州イノベーションギャラリー、北九州市環境ミュージアム、北九州市立美術館 ほか

## ■東田大通り公園

2001年に開催された「北九州博覧祭」跡地につくられた公園。低炭素型まちづくりの「見える化」として、生物や人と緑のつながりを意識した公園。時間をかけて雨水を蒸発・浸透させるクールスウェル(溝)や鳥を呼び込む実のなる木の植栽、トンボが生育できる水場など、様々な技術を導入した、市民が楽しめる空間となっている。持続可能性 /Sustainability をテーマにしたシンボリックな大型アート作品等の展示、市民参加型プロジェクトの実施を予定。



## ■北九州市立いのちのたび博物館(北九州市立自然史・歴史博物館)

「いのちのたび」をコンセプトとし、生命の進化の道筋と人の歴史を壮大なスケールで展示した西日本最大級の自然史・歴史博物館。一堂に並ぶ恐竜の骨格標本は大迫力。動く恐竜ジオラマでは太古の世界を体感できると同時に、充実した貴重な歴史資料から人々の暮らしの変遷を知ることができる。一日、楽しみながら学べる博物館。落合陽一氏による博物館収蔵品とのコラボレーションを軸にした大規模な個展を予定。



## ■東田第一高炉跡

1901年に建設された日本初の本格的銑鋼一貫製鉄所の高炉。現存するものは10代目の第一高炉跡で、一帯は史跡広場として整備され、高炉の歴史資料を展示。照明技術と水素エネルギーを活用したモニュメンタルなライトアップ作品を予定。



## ■北九州イノベーションギャラリー

「産業技術」に関する展示・体験施設で、北九州市および日本の発展を支えてきた、ものづくりの技術やイノベーションを学び身近に体験することができる。先進的なテクノロジーを活用したアーティストによる作品展示のほかに、ワークショップ、トークの開催を予定。  
※2021年4月より改装工事のため1年間休館。改装後は新科学館分館として開館予定。



## ■北九州市環境ミュージアム

2001年に行われた「北九州博覧祭」のパビリオンを利用してつくられた環境学習、環境情報、環境活動の3つの機能を備えた「環境学習施設」。北九州市の公害克服の歴史紹介や身近なエコライフなどを学ぶことができる。連携事業の市民参加型プロジェクトの展示を予定。



## ■北九州市立美術館(本館)

1974年に市のほぼ中央に位置するランドマークとして誕生した美術館。丘の頂上に2本の筒(チューブ)が突き出した独特な外観、シンメトリーが徹底されたエントランス。2019年に建築界のノーベル賞といわれるプリツカーを受賞した建築家磯崎新が手がけた初期代表作のひとつ。国内外の近現代美術を象徴する多角的なコレクションを有する。「多様性への道」と題した複数のアーティストによる展覧会を実施予定。「多様性を認めあう真に平等で豊かな社会の実現」につながる示唆的なアート作品を招聘。



主催 東アジア文化都市 2020 北九州実行委員会 会長 北橋健治 (北九州市長)

ディレクター 南條史生 (キュレーター)

ウェブサイト <https://art-sdgs.jp>

(新型コロナウイルス感染症の拡大状況および来場者の安全を優先するため、本発表内容が変更になる場合がございます。最新情報はウェブサイトをご確認ください。)

# Concept コンセプト

北九州市は2018年、アジア地域で初めてOECD(経済協力開発機構)から「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」に選定されました。そこで「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」では、アートを通して、SDGsの目標を可視化し、さらにポストコロナ時代の新しい生き方のヴィジョンを世界に向けて発信することをめざします。

日本は古来、自然を愛で、自然と共生する生き方を一つの美学にまで昇華してきました。それは伝統美術に見られる花鳥風月や日本庭園の造形などにも見出すことができます。自然に寄り添う美術は19世紀にヨーロッパを席卷した日本趣味(ジャポネズリー)のモチーフにもなりました。そのような日本文化の特筆はよりよい環境や、平等で多様性をもつ貧困のない社会の実現というSDGsの掲げる目標「持続可能な世界」の構築に、多大な貢献をなすものと思われまます。

そこで本芸術祭では廃材を使ったアート、自然や医療につながるアート、多様性社会を表現するアート、最先端のテクノロジーを用いたアートなど、さまざまな作品を招致して、これまでにない独自の芸術祭を構成します。さらに、従来のアートの境界を超えて、科学・技術、自然、福祉、スポーツといった他領域に関わる作品を意欲的に紹介し、新しい学びとエンターテインメントのプラットフォームをつくりだし、地域社会に「創造性」というレガシーを残したいと思ひます。

SDGsの実現には、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素の調和が欠かせません。本芸術祭は、アートを通じて人々に新しい生き方のヴィジョンと考え方を広め、来たるべき社会のよりよい未来を描くことを試みます。

ディレクター 南條史生

## 南條史生 Fumio NANJO

1949年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部(1972年)、および文学部哲学科美学美術史学専攻(1977年)卒業。国際交流基金(1978~1986年)ICAナゴヤディレクター(1986~90年)、エヌ・アンド・エー株式会社代表(1990~2002年及び2014年~)を経て、2002年より森美術館副館長、2006年11月~2019年同館館長、2020年より同館特別顧問。

国際的な展覧会、審査員の経験として、1988年ヴェニス・ビエンナーレ「アペルト 88展」コミッショナー、1991年カーネギー・インターナショナル展コミッショナーおよび審査員、1997年ヴェニス・ビエンナーレ日本館コミッショナー、1998年台北ビエンナーレコミッショナー、ターナープライズ(英国)審査委員、1999年アジアパシフィック・トリエンナーレ(オーストラリア)コ・キュレーター、2000年シドニー・ビエンナーレ国際選考委員、ハノーバー国際博覧会日本館展示専門家、2001年横浜トリエンナーレ2001アーティスティック・ディレクター、2002年サンパウロ・ビエンナーレ東京部門キュレーター、2005年ヴェニス・ビエンナーレ金獅子賞国別展示審査員、2006年及び2008年シンガポール・ビエンナーレアーティスティック・ディレクター、2016年KENPOKU ART 2016茨城県北芸術祭総合ディレクター、2017年ホノルル・ビエンナーレキュラトリアル・ディレクターを歴任。

森美術館において、自ら企画し、またキュレーターとして参画したもの等として、2004年「クサマトリックス：草間彌生展」、2004~5年「アーキラボ：建築・都市・アートの新たな実験展1950~2005」、2007年「ル・コルビュジェ展：建築とアート、その創造の軌跡」、2008~9年「チャロー！インディア：インド美術の新時代」、2009~2010年「医学と芸術展：生命と愛の未来を探るダ・ヴィンチ、応挙、デミアン・ハースト」、2011年「フレンチ・ウィンドウ展：デュシャン賞にみるフランス現代美術の最前線」、2011~12年「メタポリズムの未来都市展—戦後日本・今甦る復興の夢とビジョン」、2012年「アラブ・エクスプレス展：アラブ美術の今を知る」、2013年「LOVE展：アートにみる愛のかたち—シャガールから草間彌生、初音ミクまで」、2015~16年「村上隆の五百羅漢図展」、2015年「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」、2016~17年「宇宙と芸術展：かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ」、2018年「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」、2018年「建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの」、2019~20年「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命—一人は明日どう生きるのか」がある。

CIMAM(国際美術館会議)およびAICA(国際美術評論家連盟)会員。2007年度これまでの美術を通じた国際交流への貢献に対し外務大臣表彰を受賞。2016年フランス共和国芸術文化勲章オフィシエ叙勲。

著書に『美術から都市へ—インディペンデントキュレーター15年の軌跡—』(鹿島出版会/1997年)、『疾走するアジア—現代美術の今を見る—』(美術年鑑社/2010年)、『アートを生きる』(角川書店/2012年)がある。



# Artist アーティスト

現在参加が決定しているアーティストを発表いたします。なお、今後、順次参加アーティストを発表していきます。(全会場にて総数およそ 30 組予定)

## 石井リーサ明理 Akari-Lisa ISHII [会場 東田第一高炉跡]

照明デザイナー。1971 年東京都生まれ。日米仏でアートとデザインを学び、照明デザイン事務所勤務後、2004 年に I.C.O.N. を設立。現在パリと東京を拠点に、都市、建築、インテリア、イベント、展覧会、舞台照明までをこなす。世界各地でのプロジェクトに参加する傍ら、絵画制作、講演、執筆活動も行う。主な作品にジャポニスム 2018 エッフェル塔特別ライトアップ、銀座・歌舞伎座、ポンピドーセンター・メッツ、「コロッセオ・光のメッセージ」、パルファン・ディオール(シャンゼリゼ店等)、リヨン光の祭典等。フランス照明デザイナー協会正会員。国際照明デザイナー協会正会員。著書『アイコニック・ライト』(求龍堂) 他。国際照明学会エクセレンス賞、フランス照明デザイナー協会照明デザイン大賞、リヨン光の祭典グランプリ等受賞多数。「日本を代表する女性 120 人」(文藝春秋)の一人。東京都観光促進を考える有識者会議、東京大会プランディング委員会委員。

<https://www.icon-lighting.com/jp/>



(参考画像)  
ジャポニスム 2018 エッフェル塔 特別ライトアップ

## 奥中章人 Akihito OKUNAKA [会場 東田大通り公園]

美術家。1981 年京都府生まれ、同地在住。あおいおあ / AO Institute of Arts 共同代表。木津川市山城総合文化センター 体感アート講座 主宰。静岡大学教育学部を卒業した奥中は、静岡県立美術館ならびに知的障害者の社会福祉施設にて美術遊びの講師を務めたのちに近現代の思想を学び美術家となった。野村財団、朝日新聞文化財団などの助成を得てフランス・韓国・中国の AIR で長期研修を受ける。各地の地域アートで研鑽を積み、体験的な巨大作品やワークショップ開発をする美術家として国内外で発表している。主な活動として、LUXELAKES A4 美術館 ARIE2019 国際レジデンスプログラム、日中現代美術交流展 2019《適地適作》、野村財団 2019 年度下期芸術文化助成、六甲ミーツ・アート芸術散歩 2017 主催者特別賞、第七回モスクワ国際ビエンナーレ・パラレルプログラム《Yearning for The Sky》、木津川アート 2016 グランプリ+市民賞など。

<http://world-akihito.com>



(参考画像)  
INTER-WORLD / OVER THE MOUNTAINS  
2018  
木津川アート 2018  
Photo by Tadashi Hayashi  
© Akihito Okunaka

## 落合陽一 Yoichi OCHIAI [会場 北九州市立いのちのたび博物館]

メディアアーティスト。1987 年東京都生まれ、同地在住。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了、博士(学際情報学)。筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター センター長、准教授。2015 年 World Technology Award、2016 年 PrixArs Electronica、EU より STARTS Prize 受賞。Laval Virtual Award を 2017 年まで 4 年連続 5 回、2019 年 SXSW Creative Experience ARROW Awards など受賞。主な個展として「Image and Matter」(マレーシア、2016)、「質量への憧憬」(東京、2019)、「未知への追憶」(渋谷マルイ MODI、2020)など。その他の展示として、「AI more than human 展(バービカンセンター、イギリス、2019)」、「計算機と自然、計算機の自然」(日本科学未来館、2020)など多数出展。「物化する計算機自然と対峙し、質量と映像の間にある憧憬や情念を反芻する」をステートメントに、研究や芸術活動の枠を自由に越境し、探求と表現を継続している。

<https://yoichiochiai.com>



(参考画像)  
コロイドディスプレイ  
2012/2016  
KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭

## 団塚栄喜 Eiki DANZUKA [会場 東田大通り公園]

風景司。1963年大分県佐伯市大入島生まれ、東京在住。黒潮の海に浮かぶ小さな島に生まれ、清流の森に育つ。幼少期の原風景が作品に強い影響を与える。桑沢デザイン研究所を経て、モノ派を代表する美術家・関根伸夫に師事。国内外に時間、空間、人間を繋ぐ風景を作品として手掛ける。制作活動そのものが地球環境に還っていく持続可能なプロセスを重要視している。多摩美術大学客員教授。東京藝術大学非常勤講師。EARTHSCAPE 主宰。都市景観大賞、BCS 賞、米国 GreenGoodDesignAward などを受賞。

<http://www.earthscape.co.jp>



(参考画像)  
Medical Herbman Cafe Project

## 田中浩也研究室 + METACITY(青木竜太) Keio SFC Hiroya Tanaka Lab. + METACITY (Ryuta AOKI) [会場 北九州イノベーションギャラリー]

### 田中浩也研究室 (田中浩也、名倉泰生、青山新、河井萌、知念司泰、松木南々花、大村まゆ記)

デザインエンジニアリングの視点から、デジタル・ファブリケーションや3D/4Dプリンティングの可能性に国内でもっとも初期から着目。その先端を開拓し、デザイン・テックベンチャーを起業する卒業生も多く輩出。現在は「特殊造形技法」の発明・開拓、「デザイン言語」の整理・体系化、「未来の都市空間・都市生活のビジョン」の妄想・創造、この3つを軸に研究を深化させている。

<https://fab.sfc.keio.ac.jp/>

### METACITY(青木竜太)

METACITYは、思考実験とプロトタイピングを通して「ありうる都市」の形を探求するリサーチチーム。主に茶の湯のアート集団「The TEA-ROOM」、メディア「WIRED」、エンジニア集団「CARTIVATOR」、4Dファブリケーションラボ「田中浩也研究室」とそれぞれ共同プロジェクトを実施。現在、実在しない行政区「幕張市」を仮想的に作り出し架空の市民権を発行するなど自治のあり方を探求する新プロジェクトを構築中。



(参考画像)  
Fabrick Beehive  
2015  
©慶応義塾大学田中浩也研究室(田中浩也・益山詠夢・安井智宏・立川博行・對馬尚)



(参考画像)  
SOTOROJI #0  
2019  
©The TEA-ROOM

## 淀川テクニック Yodogawa Technique [会場 東田大通り公園]

柴田英昭(しばたひであき、1976年岡山県生まれ、鳥取県在住)のアーティスト名。2003年に大阪・淀川の河川敷を拠点として活動開始。ゴミや漂流物などを使い、様々な造形物を制作する。赴いた土地ならではのゴミや人々との交流を楽しみながら行う滞在制作を得意とし、岡山県・宇野港に常設展示された「宇野のチヌ」は特によく知られている。「釜山ビエンナーレ」(2006)やインドネシアで開催された日本現代美術展「KITA!!」(2008)、ドイツ・ハンブルグと大阪で同時開催された「TWINISM」(2009)、モルディブ共和国初の現代美術展「呼吸する環礁ーモルディブ・日本現代美術展ー」(2012)、デンマークで開催された「Kunst&Byrum Helsingør The life in the Sound」(2014)など海外での展覧会参加も多い。淀川テクニックの作品は小学校の図画工作や中学校の美術の教科書でも紹介されている。柴田は作品制作のみならず、その独創的なアイデアを活かした様々なワークショップを全国各地で開催するほか、「コラージュ川柳」の発案者・考案者でもある。近年では環境問題に関わるイベントでの展示も多い。

<https://yukari-art.jp/jp/artists/yodogawa-technique/>



(参考画像)  
宇野のチヌ  
2010  
Courtesy of the artist and YUKARI ART

## 和田永 Ei WADA [会場 北九州イノベーションギャラリー]

1987年東京都生まれ、同地在住。物心ついた頃に、ブラウン管テレビが埋め込まれた巨大な蟹の足の塔がそびえ立っている場所で、音楽の祭典が待っていると確信する。しかしある時、地球にはそんな場所はないと友人に教えられ、自分でつくるしかないと今にいたる。学生時代よりアーティスト/ミュージシャンとして、音楽と美術の領域で活動を開始。年代物のオープンリール式テープレコーダーを演奏する音楽グループ『Open Reel Ensemble』主宰。Ars Electronica や Sónar を始め、各国でライブや展示活動を展開。2015年より役割を終えた電化製品を新たな電磁楽器として蘇生させ、合奏する祭典を目指すプロジェクト『エレクトロニコス・ファンタスティコス!』を始動させて取り組む。その成果により、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。そんな場所はないと教えてくれた友人に偶然再会、まだそんなことやってるのかと驚嘆される。

<https://eiwada.com/>



(参考画像)  
Ei Wada + Nicos Orchest-Lab  
鉄工島電磁バンド  
2018  
Photo by Mao Yamamoto

# Exhibition 北九州市立美術館での展覧会

ART for SDGs という大きなテーマの中でも北九州市立美術館では、「多様性への道」というタイトルのもとに展覧会を開催します。

SDGs には 17 の大きな目標が掲げられていますが、その中でも、「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「すべての人に健康と福祉を」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公正をすべての人に」といった社会的な目標を総合して「多様性を認めあう真に平等で豊かな社会の実現」につながる示唆的なアート作品を招聘し、ひとつの展覧会としてご紹介します。

およそ 15 組のアーティストによるグループ展を予定しています。

[北九州市立美術館 展覧会 参加アーティスト]

## 片山真理 Mari KATAYAMA

1987年埼玉県出身、群馬県育ち、同地在住。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。幼少の頃より裁縫に親しむ。先天性の四肢疾患により9歳で両足を切断。以後、手縫いの作品や装飾を施した義足を使用しセルフポートレートを制作。2011年より「ハイヒールプロジェクト」をスタートし、歌手やモデルとしてハイヒールを履き、ステージに立つ。主な展示に「KYOTOGRAPHIE 2020」(嶋臺ギャラリー、京都、日本、2020)、「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ」(ヴェネチア、イタリア 2019)、「Broken Heart」(White Rainbow、ロンドン、イギリス 2019)、「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」(東京都写真美術館、東京、2017)、「帰途—on the way home—」(群馬県立近代美術館、群馬、2017)、「六本木クロッシング 2016 展：僕の身体、あなたの声」(森美術館、2016)、「あいちトリエンナーレ 2013」(愛知、2013)など。主な出版物に『GIFT』(United Vagabonds、2019)がある。2019年第35回写真の町東川賞新人作家賞、2020年第45回木村伊兵衛写真賞を受賞。

<http://shell-kashime.com>



(参考画像)  
in the water #001  
2019  
© Mari Katayama

[北九州市立美術館 展覧会 コ・キュレーター]

## 杉本志乃 Shino SUGIMOTO

一般社団法人 Arts and Creative Mind 代表理事。ACM Gallery ディレクター。アートコンサルタント。大学卒業後 FIT NY を経て渡英し Sotheby's Institute にてコンテンポラリーアートコース修了。近現代美術画廊勤務を経て独立。実の兄が重度の知的障害者であることがきっかけで、障がいのある作家を訪ね独自に作品の調査を始める。2017年 EYE OF GYRE にて、障がい者による優れた創作物をアート作品としてマーケットにつなげる目的で「アール・ブリュット?アウトサイダーアート?それとも?そこにある価値」展を主催。同年日本財団主催「障がい者芸術フォーラム」パネリスト。調布市文化コミュニティ振興財団「アール・ブリュットへようこそ」講師。2018年一般社団法人 Arts and Creative Mind 設立、ACM Gallery をオープン。2019年障がいのある人が表現と出会ったルーツをたどり、人間の創造性の根源を探る展覧「現代 アウトサイダー・アート リアルー現代美術の先にあるもの」を GYRE GALLERY にて主催。

<http://aacm.tokyo/exhibitions/534/>



# Collaboration Project 連携事業

「連携事業」と題して、北九州市を拠点に活動するアートマネージャー鄭慶一氏のプロデュースによる市民参加型アート作品の制作・展示(北九州市環境ミュージアム)やパフォーマンス(東田大通り公園)を開催します。また、芸術祭期間中は、市内各所において市内文化施設、企業等によるSDGsをテーマにしたさまざまな取り組みやイベントを実施予定です。

## 鄭慶一 Kyungilu CHUNG

アートマネージャー / プロデューサー。1986年北九州市生まれ。在日コリアン4世。立命館アジア太平洋大学卒業。2012年より福岡県の民間劇場「枝光本町商店街アイアンシアター」の運営に携わる。2013年同劇場ディレクターに就任。主にコンテンポラリーダンス、ビジュアルアートに携わり、野外ダンスフェスティバル「枝光まちなか芸術祭」(2013年～)を主宰・ディレクションする。国内外多数のダンサー、カンパニーとの共同事業を行うと共に、様々なアートプロジェクトに関わる。



## Design デザイン

今回発表した第一弾のメインビジュアルは、SDGsの17色をランダムに配色。17のゴールが、重なり合ったり、交わりあったりすることでイノベーションを促進するイメージを表現しています。(株式会社 DOSO)



## Pre-Event プレイベント

「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」の開催を記念して、ディレクター南條史生をホストとしたオンライントークシリーズを開催します。詳細はウェブサイトで発表します。

## Access アクセス

### 飛行機をご利用の場合 北九州空港着

- 東京(羽田) : 約1時間50分
- 大連 : 約2時間15分
- 台北(桃園) : 約3時間15分
- ソウル(仁川) : 約1時間30分
- 釜山 : 約1時間
- 襄陽 : 約1時間20分

### 新幹線をご利用の場合 小倉駅着

- 東京駅 : 約4時間30分
- 名古屋駅 : 約3時間10分
- 新大阪駅 : 約2時間10分
- 博多駅 : 約15分
- 鹿児島中央駅 : 約1時間40分



## Inquiry お問い合わせ

### 【事業のお問い合わせ】

北九州市市民文化スポーツ局 東アジア文化都市推進室  
〒803-8501 北九州市小倉北区内1番1号2階  
TEL 093-582-2390 / FAX 093-582-5755  
E-MAIL shi-eastasia@city.kitakyushu.lg.jp

### 【プレスのお問い合わせ】

「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」広報事務局  
(エヌ・アンド・エー株式会社内)  
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-15 7F  
TEL 03-6261-5784 / FAX 03-6369-3596  
E-MAIL art-sdgs@nanjo.com

(新型コロナウイルス感染症の拡大状況および来場者の安全を優先するため、本発表内容が変更になる場合がございます。)